

## 研修並びに行政視察報告

### ≪視察日程≫

研修・視察 月 日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
2月18日 (水)	西新宿大京ビル2階	地方議員研究会	上水道―見えない危機と料金見直しのリアル
2月19日 (木)	西新宿大京ビル2階	地方議員研究会	下水道―八潮市事故に学ぶ「見えないリスク」と緊急対策
	有楽町東京交通会館	ふるさと回帰支援センター	センター活動状況、利用者の実態と推移

### ≪視察内容≫

#### 1. 地方議員研究会

##### ●研修目的

人口減少と財政難がもたらすインフラ（上下水道）崩壊のリスクの実態を踏まえ、修繕と更新の優先順位をどうするのか、財源確保をどうするのか等将来に向けた課題解決について、議会が果たすべき役割を学ぶため。

##### ●講 師 甲南大学経済学部教授 足立泰美

##### ●研修概要

###### 【上水道―見えない危機と料金見直しのリアル】

- ・老朽化の波と「料金の壁」
- ・小規模化・広域連携は本当に可能か
- ・使える水道をどう守るか
- ・民間委託・広域化の現場事例
- ・将来負担比率と水道事業の密接な関係
- ・住民負担をどう説明するか、議員の責任

###### 【下水道―八潮市事故に学ぶ「見えないリスク」と緊急対策】

- ・あの陥没事故はなぜ起きたのか
- ・全国に潜む「沈黙のリスク」
- ・早期対応と議会の役割
- ・修繕と更新、優先順位をどう付けるか
- ・小規模自治体こそリスクが高い理由
- ・財政悪化とインフラ劣化は同時進行する



## ● 考 察

上水道は、地方公営企業法の全部適用となり、料金収入でまかなわれるのが原則であることを教わった。

上水道事業の課題は、1970年代に急速に整備され大量更新の時期を迎えているが、技術職の人員不足と財源確保が困難なことである。(耐用年数40年)  
職員数は30年で約4割減、そして、5万人以下の市町村では上水道事業が赤字経営になっていることが多い。

事故が起きていないので古い施設・設備が更新されず使われ続けていることがないか、関連資料など調べてみたいと思う。

上水道事業と比較し、下水道事業は施設数が多く、形態の種類も多く複雑な印象を受けた。担当者から、上水道事業が基本市町村単位であることと比べ、下水道事業は多様な形態があり市町村の枠を超える「広域下水道」もあり、県が参画していると説明があり、「下水道推進課」がある意味を納得した。

下水道事業の課題も施設の老朽化とその施設を修繕する技術職員の不足、財源確保である。埼玉県八潮市では、市道路陥没事故も発生した。

人員不足を補うため、ドローン等新技术を活用した精度の高い点検を行うことも必要である。

安来市の下水道事業がどのように整備され、会計上どのような課題があるのか調べてみたい。

## ふるさと回帰支援センター

### ●研修目的

ふるさと回帰支援センターの活動状況を学ぶと共に、利用者の実態や推移、移住定住を希望する人の考え等を調査研究することで、本市の移住定住対策の参考とするため。

- 説明者 ふるさと回帰支援センター相談部門担当者  
ふるさと島根定住財団職員

### ●説明概要

- ・組織統合とふるさと回帰支援センターの概要
- ・ふるさと回帰支援センター・東京出展ブース・セミナー開催状況  
移住定住者向けの情報発信  
自治体向けのノウハウ提供
- ・データで見る移住希望者の動向と会員自治体の推移
- ・地方移住希望者のニーズ（来場者アンケート）
- ・移住希望地ランキング

「ふるさと回帰・移住交流推進機構（JOIN-FURUSATO）」と「ふるさと回帰支援センター」は、地方創生・地方移住の総合的な対応を行う「日本のセンター」を目指し、2025年7月1日に組織統合されている。

東京交通会館8階に、出展ブース・セミナーコーナー等設け、44都道府県1政令市が相談員を配置し、移住希望者向けの情報発信や自治体向けノウハウを提供している。





● 考 察,

センター内を見学し、どの都道府県も定住に力を入れだし、差別化が図りにくい状態になっている印象を受けた。

施設内見学後は、あらかじめ提出していた質問項目に基づき意見交換。想像していたことではあるが、島根県は選ばれにくくなり北関東が定住先として人気とのことだった。東京目線であれば、山陰は遠く手軽に行き来も可能な北関東のほうがよいのだろう。

「自然豊か、のんびり、ほどよく便利」が今のトレンド。2014年、2015年は移住地希望ランキングで島根県もベストテン入りしているが、あの時は神話博しまね、60年ぶりの大遷宮で島根県の露出が高まっていた頃だったことに思い至った。

現状では、地理的に不利な島根県、そして安来市。移住希望者に目を向けてもらえるアピールポイント等工夫が必要だと考える。そして、現場まで来てくれた方に対して丁寧な対応ができるコーディネーターの養成や地域住民の意識醸成も課題だと感じる。

古事記の地名伝承では、「スサノヲが、吾が心ここに来て安らかになったとおっしゃった。ゆえに安来という」とある。古事記由来の「安来」のイメージが全国に浸透していけば、移住者増につながる素地はあると思う。